

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101335		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい香貫 (2ユニット共通)		
所在地	沼津市下香貫楊原530-16		
自己評価作成日	令和2年 1月 7日	評価結果市町村受理日	令和3年 3月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和3年 3月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設建物裏の土地で小さいながらも野菜を育て、利用者様と一緒に収穫をするのも一つの楽しみとなっています。収穫した野菜は副菜の一品に加わり、家庭的な食事を意識し3食手作りをもつとに、おやつにも出来るだけ手作りの物を提供しています。又、調理レクも積極的に取り入れ、お彼岸時には、ぼた餅、節分には恵方巻、年末には餅つき、お節作り、その他にも、干し柿、梅干し、らっきょう、稲荷寿司、バイキングと長年家事をされてきた経験を活かし腕前を発揮して頂いています。例年ですとご近所にはぼた餅や恵方巻、お餅はご近所へお裾分けをするのですが、今年はコロナの影響でご近所へのお裾分けは控えました。お誕生日にもお好きな物を召し上がって頂くよう外食の支援をを積極的に実施して参りましたが、やはりコロナの影響により施設内でお好きな食べ物を提供やお誕生日ケーキでお祝いをさせて頂きました。春は苺狩り、夏は仲見世の七夕飾り見学、冬はみかん狩り等のご家族様参加型の定着した外出企画も行っていますが、残念ながら全て中止となりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街に位置し、散歩にちょうど良い距離にスーパーマーケットがある。理念を意識し、地域とも仲良く集える様な取り組みをしており、地域住民と共に生活することが大切と考えている。法人内で一番古いグループホームの建物だが、支援は個別性を重要視し、一人ひとりの生活ペースに合わせたケアを心掛けている。こじんまりではあるが、家庭菜園を行い収穫の喜びと共に、調理レクリエーションにより色々な野菜が食卓を彩っている。行事食である「牡丹餅」は近所に配り、住民からも楽しみにされている「お振舞」の一つである。中止になったが、駐車場でラーメン屋台による近隣住民への無料配布の計画もあった。事業所理念の他、グループ理念である「私達の仕事の約束5か条」「私達の介護の約束5か条」も意識し日々支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念、グループ理念等、事務所、1階、2階の見やすい場所に掲示しています。 キャリアパスの考課項目にもなっており個々でも理念の実践に取り組んでいます。	1階・2階・事務所に事業所理念を掲示している。 朝の申し送り時に唱和し、意識付けを行っている。理念の理解は入社時の説明の他に研修が組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年中行事の際、地域の回覧板、ポスター掲示等でお知らせしています。地域主催の行事へ積極的に参加する事で交流を深め、地域包括と協力し民生委員との関係の構築に勤めています。	自治会に加入している。回覧板で地域行事の把握や事業所のお知らせを回している。地域の一斉掃除への参加や秋祭り時は、子供会による踊りや神輿が事業所駐車場に立ち寄っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生や高校生の職場体験への受け入れ協力体制を整えています。認知症カフェの開催を行い地域の方々に認知症への理解を深めて頂けるよう取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月事の会議で、施設側から利用者様に関する報告、家族様、地域包括、民生委員と情報交換を行いサービス向上に努めています。ご家族様には会議開催のご案内を送付し、参加して頂けるようお願いしています。	コロナ禍により参集しての会議はしていないが、関係各所と継続的な情報交換を行っている。議事録は地域包括支援センターに直接届け、感想等が届いている。家族の希望を受け開催日は土曜日となった。今後は組長も参加の意向があり、管理者は更に開放的にしたいと考えている。	参加者名簿の添付及び、参加方法や問い合わせ方法を記載することで参加しやすい環境を作り、更なる参加者の増員に繋がることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH会議に参加し、他施設と情報交換を行なっています。行政担当者とも対面できる場であり、相談やお話を伺っています。定期的に施設の情報誌をお届けし情報交換を行なっています。	グループホーム協議会に参加している。地域包括支援センターと市長寿福祉課の参加もあり、情報交換・報告・相談等を行い関係性の構築に努めている。グループホーム協議会では当番制で議事録を作成し、お互いに協力し合うことで関係性を強化している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修、ミーティングで身体拘束についての正しい知識の理解に努めています。身体拘束のアンケートの実施、課題の抽出や振り返りを毎月行なっています。玄関施錠を安全の観点から行なっていますが、必要に応じ適切に対応をしています。	身体拘束廃止及び虐待防止について年4回の研修を行っている。入居者に「満足度アンケート」を実施した結果、職員との会話でスピーチロックが見えた。しかし、振り返りを行いクッション言葉を使用する等、改めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より利用者様に対し敬意を払い接するよう心掛けています。研修、ミーティング等の勉強会を設け、職員の虐待根絶の意識向上に努めています。又、グループ主催の虐待研修へ参加しフィードバックを行なっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括主催の権利擁護に関する研修に参加しています。利用者様の人生にとって重要な意味を持つ制度な為責任者(管理者、リーダー)が主に理解して、必要性の判断を含め責任者が対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、退去時ともに説明は丁寧に行い手続きを進めています。特に入居前の施設見学、面接の際には利用者様、ご家族様との信頼関係の構築に努め、質問や意見を言いやすい雰囲気作りに努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し投函をして頂く事により、職員間で共有、早めの対応に繋がっています。又、ご要望やクレーム報告書記に載し全体で把握できるようにになっています。	面会時、また電話・FAXを利用して思いを伝えてくれる家族や入居者宛に送られた荷物の中に管理者宛の手紙を入れてくれる家族もある。それらの思いを受け止め、日頃の支援に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議を月2回開催し職員が主導となり進行をして行きます。職員それぞれの意見の抽出をし、会議計画書の作成、議事録を作成し会議の内容を職員全員が把握出来るようにしています。	ロッカールームの片付けや、落ち着いて休憩できる空間作り、ミーティングの場所等、仕事しやすい環境作りを行っている。話し合うことで職員の意見を聞き出しており、職員のコミュニケーション力にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を取り入れ職員それぞれの評価は行っています。遣り甲斐やキャリアアップに繋げる環境の整備が確立しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、社内、外部等、積極的な研修参加を促しています。参加者によるミーティング時のフィードバックの実施、全体的なスキルアップと各自の向上心を高めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修参加に加え交流イベントへの参加、他事業所との職員交換研修を行っています。それぞれの施設の支援について学べる機会があります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の生活歴や、背景を深く知る為に、ご家族や関りがあった方々から情報収集を行います。心に寄り添い傾聴し信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、ご家族様より聞き取りした内容に、ご不安やご心配があった場合、ご家族様の対応やフォローが出来るよう、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の要望に対して優先順位を正しく行い迅速かつ適正なサービス導入に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性を理解した上で尊重し出来る力の継続を大切に不十分な部分の支援を行ないます。身体的に支援が多い方からも経験や知識から出来る力を引き出せるような言葉がけに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお電話での近況報告の際、ご家族様のお気持ちを十分理解した上での説明を行っています。又、絆が途切れる事なく続いていくよう関係性の継続に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、外出等ご家族様と過せる時間の提供と支援に努めます。ご本人様の人生と歴史を尊重しご家族様や関わりのあった方や場所との繋がりを大切に考えます。	入居時に家族からの聞き取りや日々の会話の中で馴染みの関係を把握している。手紙でやり取りしてる方もいる。面会が難しい中、事業所駐車場でレクリエーションを行い通行者と挨拶する等、関係の継続支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活歴に加え現在の体調や精神状態等を総合的に判断し利用者様同士の関係性がバランスよく保てるよう配慮します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、転所先へ詳細な情報提供を行なっています。必要に応じてご家族様へのサポートや関係機関との情報交換等、支援継続を行なっている。ご家族様がいつでも気軽に訪問をする事が出来るよう窓口を開けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の要望には可能な限り希望に沿うよう努めています。困難な場合は日常生活での会話、表現、行動を職員間で共有し希望に近い支援の検討、少しの会話の内容で支援に繋がるよう努めています。	日常の会話やケアの中で本人から要望の聞き取りを行い、迅速に対応している。本人が訴えられない場合は、家族からの情報をもとに意向に繋げている。月1回のフロアーミーティングではケア中心に話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人、ご家族様から生活歴、生活環境等の情報提供頂く際は出来るだけ詳細に説明頂けるようご協力頂いています。又、入居時の手伝いを積極的に行ない職員側からも情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の食事、睡眠、排泄等を観察し特変時には時系列に記録を残し状況把握が出来るよう努めています。特に入居直後は小さな変化を見落とさないよう注意を払っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に適した支援を行う為、ご本人様、ご家族様や医療機関と連携をとり、多角的な検討を行い、ケアプランの評価見直しを行なっています。プラン作成前には、ご本人やご家族様からご要望ご意向を面会時、お会い出来ない時には電話にて伺っています。	ケアマネジャー、管理者、当日出勤の職員でカンファレンスを開催している。事前に本人や家族から意向を確認し、介護計画に反映させている。モニタリングは2階を管理者が行い、1階をケアマネジャーが行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、日誌等は誰が見ても状況が把握出来る共通の用語を用いるようにしています。特記事項等は申し送りで情報の引継ぎ、共有を行い実践に繋げています。気付き表を活用し利用者様の変化等共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安心と安楽な日々を過して頂く為の支援サービスを常に模索し、お一人お一人その時々合った支援、サービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣市町村、一般、ご家族様方のボランティアの受け入れを随時行っています。季節の手作り調理レクを行なった際は、ご近所へお裾分けをし交流の場を広げています。又、散歩や買物等の外出の支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医以外の受診対応やご希望に添った医療を受ける支援を行なっています。又、医療連携医の月2回の往診時の立会い、情報共有、ご家族様への報告、特変時には医療連携医やご家族への適切な対応、病院対応の送迎を利用しています。	協力医による訪問診療が月1回で、要介護3以上になると訪問診療が月2回に増える。臨時往診の他、歯科医による往診もある。現在1名は以前からの協力医の訪問診療を受けている。夜間・緊急時のオンコール体制が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療部医師看護師、施設巡回看護師への情報、相談は直通の連絡対応で指示を頂いたり報告をさせて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活必需品のお届け、医療機関と連携し情報交換を行いご家族様に説明しています。こまめに入院先へお伺いしその度情報を頂き、退院時には安心して治療の継続が出来るよう行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、医療関係者との説明の場を設けています。ご家族ご本人から今後の意向を伺いながら「見取り介護意向確認書」記入して頂き、情報方針を共有し支援を行なっています。又、支援方法医療・ご家族との関わり、お看取りのケアプランを作成し支援に取り組んでいます。	入居時に看取りについて説明している。看取りに入る際には医師と管理者が説明して意向確認を行っている。介護計画は1か月毎に見直し、意向に沿うよう努力している。コロナ禍等で面会制限中も家族に様子を見に来てもらい、悔いの残らない様に配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って、特変時には対応出来るようにミーティング内で事業所内研修を設けています。又、AEDの設置や心肺蘇生の研修に、ほぼ全員の職員が参加をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、消防署員立会いの、風水害・夜間想定・日中想定での防災訓練を、年3回実施しています。	地域防災訓練への参加の他、風水害や火災訓練を3回行っている。今年度はBCP対策として1月に初動訓練、2月にマニュアルを作成を行い、役割分担・手法・手段等細かな部分まで取り決めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用様の生活歴、性格をよく理解し言葉掛けを行なっています。それぞれの思いや気持ちを尊重し、共感傾聴を行なっています。	排泄時の言葉がけは、耳もとで囁くように気を付けている。ドアを閉めることは基本だが、音や匂いが室外に漏れないようにしている。促しや依頼時の言葉使いに注意し、人格や気分を損ねない言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からの言葉、表情、表現から思いを察する事が出来るよう、日頃から寄り添い言葉掛けを行なっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースや集団生活の枠にはめてしまう事がないよう、安静時間、散歩、趣味等で心穏やかに落ち着いた生活をして頂く支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望により、毛染め、定期的に訪問美容室の利用を行っています。入浴準備の際、好きな服を選んで頂いたり、着替えの際には身なりに興味を持って頂くように心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内菜園で、季節の野菜の収穫や提供をしています。又、行事ごとの食事レクでは節分の恵方巻き、お彼岸のぼた餅等の手作り体験をして頂き、恒例の楽しみの一つとなっています。	3食は手作りで、調理や片付け等を職員の見守りの中で入居者も手伝っている。季節料理や行事食は勿論の事、事業所の畑から収穫した野菜を活かしたメニューを取り入れている。中には晩酌を楽しむ利用者もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配茶、食事時のその度の記録を基に必要なに応じ医師、看護師に相談し指示を仰いでいます。変更があった場合には職員全員に周知徹底を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様それぞれに合わせた支援を行なっています。仕上げ磨き、口腔内の確認で清潔保持に努めています。歯科協力医の月2回の往診、必要に応じて歯科衛生士による月4回のブラッシングも実施しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を目安にし、利用者様の排泄パターンと動きに合わせて、トイレにご案内を行なっています。夜間は歩行困難な利用者様に対しては、ポータブルトイレを使用し、ご負担の軽減に努めています。	排泄表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。各自のタイミングに合わせた誘導と確認を行っている。ヨーグルトや牛乳・オリーブ油やオリゴ糖を使用したり、廊下を歩く運動を実施している。薬に頼らない自然排便を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルト提供と、朝食時には味噌汁にオリーブオイルを数滴入れる等の支援をしています。午前中のレク活動参加で身体を動かして頂き、体操等に参加されない方には、廊下歩行等の言葉掛けを行い、自主的に歩いて頂くよう工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴予定表に沿って行いますが、当日の体調だったり、入浴のご希望だったり、その都度の変動にも対応します。又、週2回の入浴が難しい利用者様は、清潔保持の為清拭・ドライシャンプー・足浴への変更支援を行なう事もあります。	午前に3名を目安に週2回の入浴支援を実施している。季節のしょうぶ湯やゆず湯は入居者の楽しみの一つである。白癬菌のある人は毎日足浴を行い、終末期においては週2回の清拭のうち1回は洗髪している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安静を希望される利用者様については、夜間時に影響のない時間での安静をして頂いています。夜間はご希望により入床前に、湯たんぽを入れて、足元を温める等の支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに薬の詳細を分かるようにファイルをし、服薬マニュアルに沿った支援を行なっています。往診時、服薬の変更があった場合、口頭での送りりと、服薬管理表への記載で把握と周知を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様からのご要望を伺い、楽しみの提供を行なっています。ぬり絵・写経・新聞折・ゴミ箱作り・カラオケ、ドライブ等工夫を行なっています。又、ポテンティアの協力で、月2回習字教室を開催しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物等に同行や、天気の良い日にはご近所の散歩を行い、花々や畑で季節を感じて頂いています。日常の何気ない会話で、行ってみたい場所等をお伺いし、ご家族へお伝えしたり、外出のご希望には出来るだけ添えるよう努めています。	散歩がてらの買い物や近隣神社への外出は難しい状況ではあるが、法人内の車を使用しドライブに出掛けている。また、事業所駐車場で行うレクリエーションで太陽光を浴びる機会を作っている。現在、お花見を計画中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご要望があった際には、傾聴しご希望に沿えるように努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りに、代筆や投函の支援を行っています。又、ご家族様への電話の橋渡し等、大切な方々との交流が、途切れてしまわないよう、ご希望に沿えるように努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには明かりの点灯、カーテンで光の調整を行っています。掲示スペースを活用し、日頃の写真の掲示、塗り絵や折り紙、習字作品、季節感のある掲示物の提供を行なっています。臭い対策に消臭ビーズを活用しています。	1日2回の換気、及び空気清浄機3台を24時間稼働させている。毎日朝礼時に手摺やドアノブ等の消毒を行い、衛生管理を行っている。入居者が作成した掲示物で季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様間での交流がスムーズに行えるようフロアの席の位置や、ゆったりとテレビ観賞が出来るよう、ソファの設置場所、座る位置の工夫を行なっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様の希望に沿った家具、思い入れのある家具を使用して頂いています。ご家族の写真や誕生日カード等を飾り、落ち着く空間になるよう努めています。	馴染みの物の持ち込み可能で、入居時に可能な物について詳しく説明している。衣替えは職員と共に行い、服装も本人の好みでスカートをはく利用者もいた。毎朝ベッドの手摺等の消毒を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ぎて頂く為の環境作りに努めています。日頃の点検より危険箇所の発見、整備や改善等を職員間で検討し対応しています。動線部分には、障害物となるような物を置かず、移動しやすい環境を作っています。		